

津久井やまゆり園事件について その3

この事件について寄せられた意見・感想です。ぜひ最後までお読みください。そしてご意見をお聞かせください。

1) Yさん

まず殺人事件についてですが、どんな理由・背景があろうと「他者の命を奪うこと」は絶対にしてはいけないことだし、許されないことだと思えます。愛している人、大切な人を突然失うことに対する想いは想像を絶します。それでも日常的に殺人事件、テロ、飲酒運転などによる事故、親による子供に対する虐待、いじめによる集団暴行など「他者の命を奪うこと」が起きていることは事実だし、人間という生き物の恐ろしさであると思えます。同じ人間、全員が等しく生きる権利を持っているはずなのに、そうではない社会は大なり小なり当たり前前のようにあって、その社会を作っているのも人間であるという事実、(簡単に)奪われていく命、怖いし、悔しいし、悲しいです。

今回の事件に対する福祉の場にいる者としての思いですが、結局支援者中心の福祉(支援)、役人中心の制度(サービス)だから起きたと思っています。現在の福祉(支援)において支援者中心の福祉(支援)は当たり前前のように行われていて、支援者が気づかずに行っているケースもたくさんあると思えます。それは自分も、草の実会自体にも言えることだと思えます。その小さな支援者中心の福祉の積み重ねが今回のような大きな、あってはならない事件につながるのではと思えます。

よって、日々自分の仕事に対して振り返り、周りに発信し客観的に評価してもらいながら、本人中心の支援になっているか、根拠のある支援ができていくか、本人とよく話をし本人がその支援を納得しているか、人としてのつながり・付き合いができていくかなどを評価・点検していく必要があると思えます。人間の思いや記憶は薄れていくもの、薄れてもよいものと薄れてはいけないものがあると思えますが、今回の事件は間違いなく後者であると思うし、その思いや記憶を持ち続けるためには日々振り返っていくしかないと思えます。当たり前の日常を奪われた方たち、その無念さは計り知れません。よって、みんなの当たり前の日常を大切に今後も仕事に励んでいきたいと思えます。

2) Zさん

「言葉の重み」を考えさせられることがよくある。本当の事か、間違っている事か、テレビやパソコン、スマホで見ている情報が、本当か、違うのか。あの事件については語ることはできない。(だ)けどだから僕は毎日、自分の目で確かに見て、感じてきたことを元に書かせていただきます。人と人が仲良くやっていくためには、しっかりと見て、しっかりと聞かなくてはいけない。どうすれば仲良くなれるか、わかってもらえるか考えなくてはいけない。

相手がわからないことを言ったとき、こわいことをしたとき、どうしてなのか考えなくてはいけない。

困った時、いやなことがあった時、誰かを嫌いになった時、どうしていいかわからなくなった時、腹が立った時、それを話せる人はいますか。悲しい時にそばにいてくれる人はいますか。

やってみたいことはありますか、やりたくないことはありますか。遊んでますか。どうしていいかわかんないのはあいつだって同じだ。どうしたらよいかを皆で一緒に考えていきたいと思えます。

教えてください、言わせてください。どうかよろしく願います。
それが僕たち（福祉）の使命（しごと）です。

3) AAさん

誰もが信じられないような事件を起こした人は、どのようにして
育てられたのでしょうか？実家なのに、両親がいるのに一緒に住ん
でいない……そんな点も気になっていました。

犯人の考え方そのものが非常にゆがんでいて正常とは思えませ
ん。障がいのハンディのある人だって、好きでハンディを持っている
わけではないですし、病気ある人も、好きで病気になっているわ
けではありません。又、国も“消費税は福祉に回す”と最初言って
ましたが措置制度→支援費制度→契約ときりかわり、予算を見事に
けずり、保育園不足も、高齢化社会、介護離職など……色々な問題
が山積みにもかかわらず、本当に日本という国は、福祉は遅れてい
るし、本当に困っている人には優しくない国だと思います。“たい
して、気にすることはない”……衆議院議長も、そういうふうに感
じたのでしょうか？何が問題なのか、きちんと向き合おうとしない
のも問題だと思います。

もう、かなり前の話ですが、障がい者自立支援法が施行される頃、
大通公園6丁目くらいのステージで、いくつもの施設や事業所が
集まり集会を開きました。まさに、“自立支援法、反対運動”でした。
その時の、本人たちの声、未だに覚えています。“なぜ、私たちの
法律なのに、私たちの意見を聞かないで、勝手に法律をつくるかが
分かりません”と、ある人は訴えていました、まさにその通りだと
思います。話はずれましたが、やはり考え方にずれがありすぎると、
難しいですが、具体的にどうすればよいのかは、短い時間で考える
のはきびしいです。障がい者は、生きている価値がないと考えてい
た犯人こそ、“価値がない”と誤ってしまいます。

4) ABさん

職場では、彼、彼女たちのピュアで純粋なハートにいつも助けら
れている自分です。可哀想という感情は相手に対し上下、強弱とい
う立場での感情を抱いていると思う。

相手の事を全く知らない身勝手な行為、行動に怒りを覚える。生
きてきた中で本人のみの幸福の物差しがあり、その物差しでしか
幸福を計り幸福度を知ることが出来なかったのではないだろうか。
誰もが人として同じ存在である、という言葉をしっかり脳に刻み、
改めて、言葉の重みを感じる。

5) ACさん

昨年この事件は本当に大きな衝撃を受けました。
「志」をもってこの仕事をしていたはずの同じ職員が犯人というこ
とが二重に驚かされました。その後テレビに出ていた元職員たちの
コメントが「自分も同じ気持ちになったことがある。」「犯人の気持
ちが理解できる。」と・・・。

何故なのか！「仕事がついのか」「仲間とコミュニケーションが
とれないのか」「160人もの多数が入所する施設が郊外にあること
がこの様なことになるのか」考えても大きすぎて理解できません。
この仕事をさせてもらって地域にとけ込むことは、難しい面がある
と思うこともあります。でもどんな人も一市民として普通に生きて
いくことがあたり前のことで、そのためにも私たちがサポートして
いくべきだと思います。縁あってこの仕事に就いた私は、微力なが
ら草の実会の基本を忘れず、日々試行錯誤しながら仕事をさせて頂
こうと再認識しました。